

## ファミリー・アンド・ヒストリー

## 〔第28回〕

## 鞍馬とクマラ

✦ 文 岩本耕太郎 text by Kotaro Iwamoto ✦

京都市の北部に鞍馬山があります。鞍馬といえは鞍馬天狗と源義経があまりにも有名ですが、その鞍馬寺のことや、さらに山奥に「奥の院魔王殿」があるのを知っている人は多くありません。

奥の院魔王殿は鞍馬寺から西に位置する貴船神社へのハイキングコースの途中にあります。ちよつとついでに足を延ばそうなどと甘い考えで訪ねようものなら、きつと後悔するに違いありません。

本殿金堂に行くまでもケーブルカーを使ったほうが楽なくらいの坂道が続きますが、そこからさらに山道を30分くらいかけて「奥の院魔王殿」に到着します。

鞍馬寺の本尊は千手観音、毘沙門天と護法魔王尊の三尊を「尊天」と呼んでおり、その尊天はすべての生命を生かし存在させる宇宙エネルギーであるとしています。

奥の院魔王殿には三尊のうち護法魔王尊が奉られており、それこそなんと650万年前に金星から光臨したサナト・クマラだといえます。その体は通

常の人間とは異なる元素から成り、その年齢は16歳のまま年を取ることもない永遠の存在であり、さらにその姿は背中に羽根を持ち、長いひげと高い鼻で、これこそが大天狗だそうです。

本殿金堂には金剛床と呼ばれる三角形で構成された床があり、その中心には六ぼう星を形成し、そこに立つて人間が宇宙そのものである尊天と一体化する修行の場だそうです。

鞍馬寺が建立したのは770年とされていますが、そんな時代に宇宙や金星などの概念があったのでしょうか？素直に解釈すれば護法魔王尊は宇宙人だったということではないでしょうか。背中に羽根が生えているということとは空を飛ぶことができたということでしょう。

そういえば鞍馬の隣は貴船ですが、山の中に船ということに違和感を抱いていましたが、もし空から神の船が降り立ったのであれば納得できます。

ここまでであれば日本の作り話だといって笑って済まされるのですが、それで済まされない事実が見つかります。

インドの聖典でヒンドウの叙事詩「マハーバーラタ」に金星からサナト・クマラが降臨し、人々に文明をもたらしたと、鞍馬と全く同じ話が出てくるのです。私などは古代の人類の文明にはエイリアンが介在していたはずだと信じているほうなので、この話もわが意を得たりと思うのでした。



## profile

帝国クリニック院長

1959年生まれ。幼少期をボストンで過ごす。

山形大学医学部卒。米国イリノイ州立大学で分子生物学を研究、1993年より現職。

サーフィンとクラシックカーをこよなく愛し、4世代7人家族。著書に『患者さまが増える』（H&amp;I出版）、『エグゼクティブが実践するたった一つの健康法』（中経出版）